

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念について、開設時にスタッフで話し合い、利用者が地域の中でごく普通の生活を送ることができるような理念を掲げており、スタッフは理念を共有しケアの道標として実践に繋いでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住宅地が少ない環境にあるが、道路をはさんだ町内会に参加し地域の行事に参加している。また、町内会の清掃に利用者とともに参加することで知り合いとのコミュニケーションの機会になっている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	見学の際に認知症の相談を受けることがあり、また利用者家族より他の認知症の家族への対応についての相談を受けることもある		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で利用者の状況や行事等の報告を行い、グループホームのケアや行事等で困っている事をメンバーに相談し、意見や助言をもらうことでサービスの向上に繋がっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	県及び市の担当者とは、事業所の取り組みの報告、介護保険諸手続き、福祉手続き等相談しながら関係作りを積極的に行い、協力関係を構築している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議の中で禁止対象となる具体的な行為がケアの中で行われていないか確認している。また積極的に研修に参加し、研修内容の情報の共有に努めることで意識の向上を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及びスタッフは、高齢者虐待防止関連法についての研修に参加し、虐待をしないケアの在り方をスタッフ全員で話し合い、情報を共有することで意識の向上を図り虐待のない施設作りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している肩がおられるので、ユニット間で情報の共有を通して、本人及び家族や弁護士と話し合いながら個人の権利擁護について学んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のケアに関する考え方や利用者の状態変化により契約解除に至る場合の説明を行っている。また本人の状態の変化の際は家族へ報告し情報の共有に努めており今後の可能性について理解を求めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で、事業所は家族から意見を頂きながら話し合い、運営に反映させている。また、介護相談員の訪問を受け、利用者の意見を外部を通して出された意見から日々のケアに活かしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常的に話を聞く機会を持ち、スタッフ会議では意見や提案を出しやすい雰囲気作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は仕事の状況をみて管理者や職員、個々の努力や実績、勤務状況を把握して評価を行っている。処遇改善加算の取得に伴い位置づけを明確にし、資格取得者には意向や能力に応じた業務を行ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は個人の能力に応じて研修に参加させると共に、事業所内の研修を充実させることで知識や技術の向上を図り、ケアに活かせるよう努めている。また今年より自己評価を取り入れ、モチベーションの向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	スタッフが積極的に研修に参加し、同業者と交流する機会をつくり、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じてサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人及び家族との事前面談を十分に行い、利用者の生活状態を把握することで、どのような暮らしを求めているかを理解し、		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が相談に来られた際は、今までの経緯や家族の苦労をゆっくりと聞き、家族がどのようなサービスを求めており、事業所としてはどのような対応ができるかを伝え、信頼関係を築きながら利用開始に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談に来られた際は、相談時の本人や家族の状況が早急に支援を必要とする場合は、地域包括支援センターや他の事業所のサービスに繋げるなど柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは、年長者である利用者から伝統的な家庭料理のあり方や季節の行事、生活の知恵などについて教えられたり、逆に労わってもらったり、励ましてもらうなどの場面も多く、一緒に過ごし支え合う関係がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に利用者の状況を伝え、情報を共有する中で家族ができる役割をスタッフと話し合いながら積極的に行っている。遠方に住む家族には電話の取り次ぎや手紙のやりとりを行い関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人、近所の方や宗教関係の面会等があり、本人の居室でゆっくり時間を過ごすことができるようにし、町内会の清掃に参加することで馴染みの関係を継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について、スタッフ間で情報の共有を行い、座る位置の調整を行い、食事の際は一緒に過ごし、楽しい時間を持つことで利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてサービスが終了しても退去先に訪問して本人や家族の経過を把握し、必要に応じて相談や支援を行っている。また、退去者の紹介で入居相談に繋がることもある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフは、個人の思いや暮らしの意向を聞き、他には家族や関係者からの情報収集や生活歴から本人の思いを推し量り本人が主体的な暮らしを送れるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスの利用時に生活歴やライフスタイル、価値観を把握し、了承を得て家族や知人等から過去の具体的な情報を伝えてもらい、本人の全体像の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、日々の生活の中での何気ないやりとりや言動の中から本人の心身の状態や出来る力を見極めサービスに活かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の身体状況や生活歴、希望や思いを把握し状況に応じて家族や関係者との連携を保ちながらケース会議を行っており、スタッフや家族の気づきや意見を反映して本人が主体的に生活を送ることができるような介護計画の作成に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や言動、気付いた事、エピソードを記録に残し、スタッフ全員が情報共有できるように随時記録の把握に努めている。また、共有された情報がケアの実践や介護記録の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居が長くなるにつれ、医療的ニーズの必要性が高まることでGHでの支援が困難な方のために有料老人ホームを併設し、また事業所で医療連携体制ととしており健康支援や看取り支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会のボランティアに来て頂き意見交換や交流の場を設けている。また、消防署には、年に2回の消防訓練実施の際に立会や指導をもらい、協働で施設の防災に取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前に受診の状況とかかりつけ医の希望を確認し、希望があればかかりつけ医の受診ができるように支援している。外部受診は家族に依頼しているが、必要に応じて施設にて通院介助を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との連携が取れており、朝、晩の看護師の訪問の際に利用者の状況を報告することで日常の健康管理ができています。また、医療面での相談、助言、対応がスムーズに行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、本人の支援方法に関するサマリーを医療機関に提供し、頻繁に見舞うようにしている。また家族や医療機関と連携を取り、本人や家族の思いを尊重した環境となるよう支援につとめ、日頃からコミュニケーションを図ることで関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応に関して、スタッフの力量や他入居者の状況、チームの連携などの諸条件をふまえ、本人の状況に応じて適宜家族、スタッフの意向を確認しながらかかりつけ医と連携を図ることで支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は、防災訓練時に異物除去法の研修を受け、スタッフも個別に救急蘇生法の研修を受講している。今後も急変に備えた対応の仕方を学ぶ研修を実施していく。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を関連事業所と実施しており、夜間を想定して実施している。また防災マニュアルを作成し、あらゆる災害を想定している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは入職時に個人情報に関する説明を受け、一人ひとりのプライバシー保護の徹底や個人情報の漏洩防止について守る責任を教育され、尊厳に配慮したケアの研修も行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフは、利用者と信頼関係を築くことがケアの根本にあることを理解し努めているとともに、利用者が主体的に生活するために自己決定ができるような支援に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な生活時間はあるが、本人の思いやペースを尊重するためにその人らしさを知ることが徹底し、希望に沿った支援となるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者の能力に応じて身だしなみの支援を行っている。散髪を気に掛ける利用者には訪問理美容の利用支援を行い、外出の際にはおしゃれが楽しめるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の要望や旬を取り入れたメニューを作っており、五感に働きかける食事の提供を心がけている。買い物から食材の下ごしらえ、配膳といった工程に利用者が関わっており、1人ひとりの力を活かす場面が多くある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の生活介護記録に1人ひとりの食事量を記録して情報の共有を図るとともに、在宅訪問診療の際に採血結果に基づき食事カロリーや水分の指示など細かく指導を受け対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スタッフは口腔内の清潔の意義を理解し、1人ひとりの力に応じた歯磨きの声かけや就寝前の義歯の洗浄や消毒の支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、事前の声かけやトイレ誘導をすることで排泄の自立支援を心がけている。また、排泄の失敗があった時にはさりげなく介助を行い自尊心の配慮に努める。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れたり、身体を動かす機会を設けて自然排便を促す工夫を個別にしている。また、個別の記録に排便の状態を記録し、便秘者には下剤や浣腸を個々の状態に応じて使用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者の体調や気分に応じて入浴したい日に入浴し、入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームの連携で入浴支援を試み、入浴のできない日には足浴や清拭を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調に応じて休息や睡眠がとれるよう支援している。日中の活動を活性化させることで生活のリズムを整え夜間の睡眠が良質なものとなるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携する薬剤師指導の下、服薬方法や注意事項について把握しており、薬剤情報のファイルを作成し情報の共有に努めている。また、症状の変化について報告し早期発見、対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や趣味をそれぞれが楽しんだり、日々の言動の中でニーズをくみ取り自主性を尊重した支援に努めるとともに、利用者の経験や知恵を発揮する場面作りに努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には散歩へ、またその季節に応じた花や風景を眺めに月に1、2回ドライブに出かけている。家族との外食の機会等これまでの生活の継続となるよう外泊・外出支援を家族の協力を得ながら行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時にその人の能力に応じてお金を所持したり、買い物に行くことのできない時には、希望を尋ねて代理で買い物を行うことで支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	友人からの電話の引き継ぎを行ったり、家族に手紙を書く機会を設けて送ったりし、本人の希望に即して電話や手紙が自由にやりとりできるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が純木造建築で木肌のぬくもりと木の香りに包まれた心地よい空間になっている。また、季節感や生活感(十五夜やお盆などの行事)を大事にして居心地に良い空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先やテレビ前に椅子を置いて自由に過ごせるような環境を作り、気の合った仲間同士で談笑したりくつろいだり、1人になれたりする空間作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が使い慣れた家具を持ち込み、今までの暮らしが継続されるような雰囲気作りに努めている。また、希望に応じてテレビを設置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーに配慮されている。また利用者の状況に応じて居室の滑り止めマットやベッドの介助バー、センサーマットの使用などを行い、安全の確保と自立への配慮を行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない